

本県では、平成 23 年 3 月に滋賀県基本構想を策定しました。人と人との絆をつなぎ、人と自然がつながる中で、県民の皆さんの不安の解消や社会的な課題の解決を行い、生活の満足度を高め、社会の質を高めるとともに、新たな需要や雇用を創出し、経済的な活力を高め、「住み心地日本一の滋賀」を実現するため、様々な施策を展開しているところです。

このたび、平成 26 年度末で計画期間を終了すること、また、いよいよ滋賀県においても平成 27(2015)年をピークに人口減少に転じることが予測されており、少子化・高齢化が一層進行し、本格的な人口減少社会を迎えることから、今後の政策の方向性を検討するため、アンケートを実施しました。

★調査時期：平成 26 年 2 月 27 日～3 月 10 日

★対象者：県政モニター（399 名）

★回答数：247 名（回収率 61.9%）

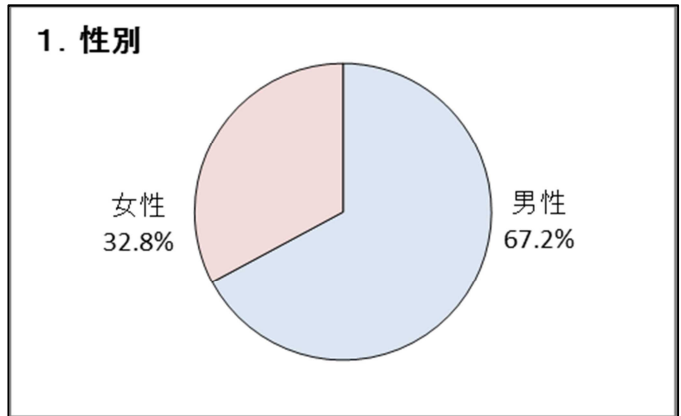
★担当課：企画調整課

※四捨五入により割合の合計が 100.0%にならない場合があります。

【回答者の属性】

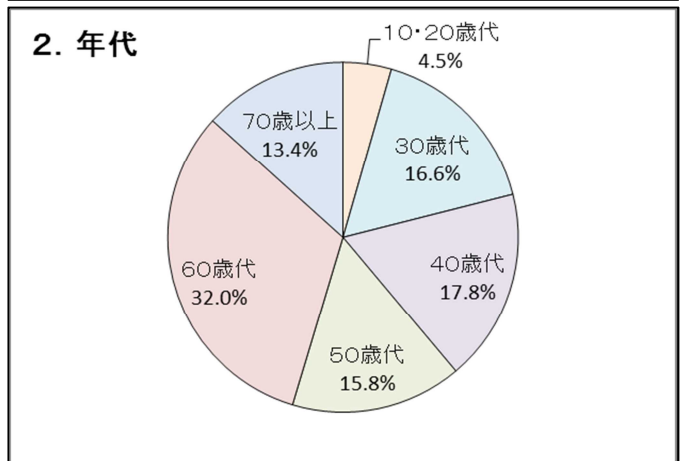
1. 性別

性別	人数	割合
男性	166人	67.2%
女性	81人	32.8%
計	247人	100.0%



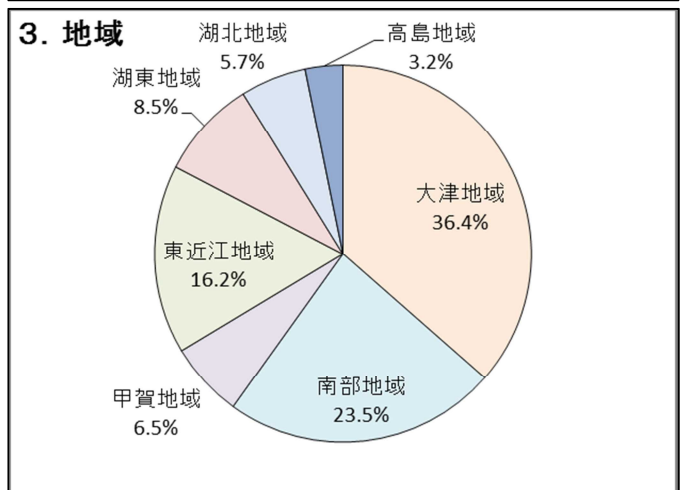
2. 年齢

年代	人数	割合
10・20歳代	11人	4.5%
30歳代	41人	16.6%
40歳代	44人	17.8%
50歳代	39人	15.8%
60歳代	79人	32.0%
70歳以上	33人	13.4%
計	247人	100.0%



3. 居住地域

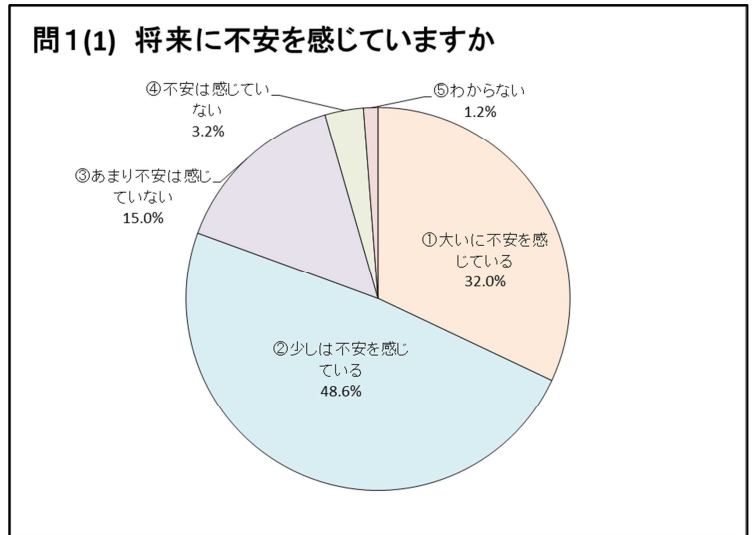
居住地域	人数	割合
大津地域	90人	36.4%
南部地域	58人	23.5%
甲賀地域	16人	6.5%
東近江地域	40人	16.2%
湖東地域	21人	8.5%
湖北地域	14人	5.7%
高島地域	8人	3.2%
計	247人	100.0%



問1 少子高齢化が進む中で、あなたが感じている不安についてお尋ねします。

(1) あなたは、将来に不安を感じていますか。

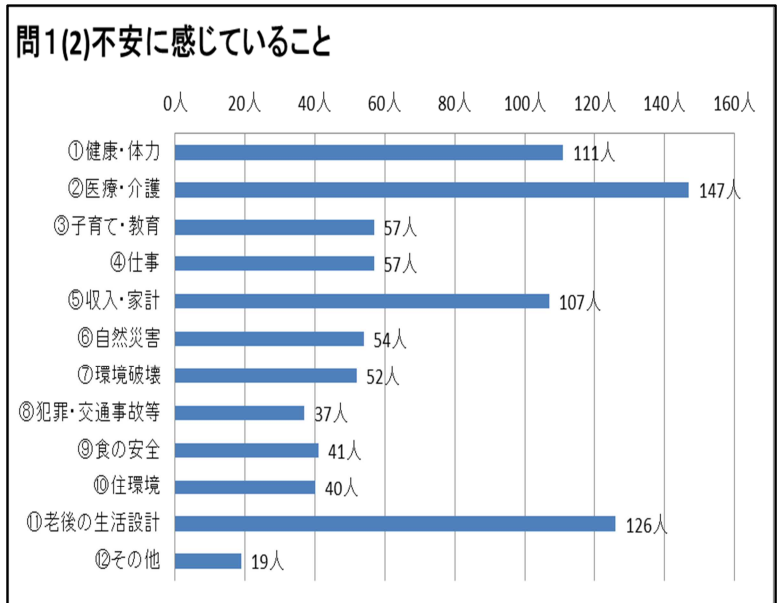
区分	人数	割合
①大いに不安を感じている	79人	32.0%
②少しは不安を感じている	120人	48.6%
③あまり不安は感じていない	37人	15.0%
④不安は感じていない	8人	3.2%
⑤わからない	3人	1.2%
計	247人	100.0%



【(1)で①、②を選択された方(199人)のみ】

(2) あなたが特に不安を感じていることはどのようなことですか。(複数選択可)

区分	人数	割合
①健康・体力	111人	55.8%
②医療・介護	147人	73.9%
③子育て・教育	57人	28.6%
④仕事	57人	28.6%
⑤収入・家計	107人	53.8%
⑥自然災害	54人	27.1%
⑦環境破壊	52人	26.1%
⑧犯罪・交通事故等	37人	18.6%
⑨食の安全	41人	20.6%
⑩住環境	40人	20.1%
⑪老後の生活設計	126人	63.3%
⑫その他	19人	9.5%



「⑫その他」の具体的な内容(主なものを抜粋)

- ・地域の行事や奉仕活動
- ・子どもの将来
- ・未婚化の進行
- ・インフラの老朽化
- ・原発事故
- ・社会保障制度
- ・国家財政と経済
- ・国の政治
- ・戦争

(3) (2)で選択された項目について、具体的にどのような不安を感じておられますか。

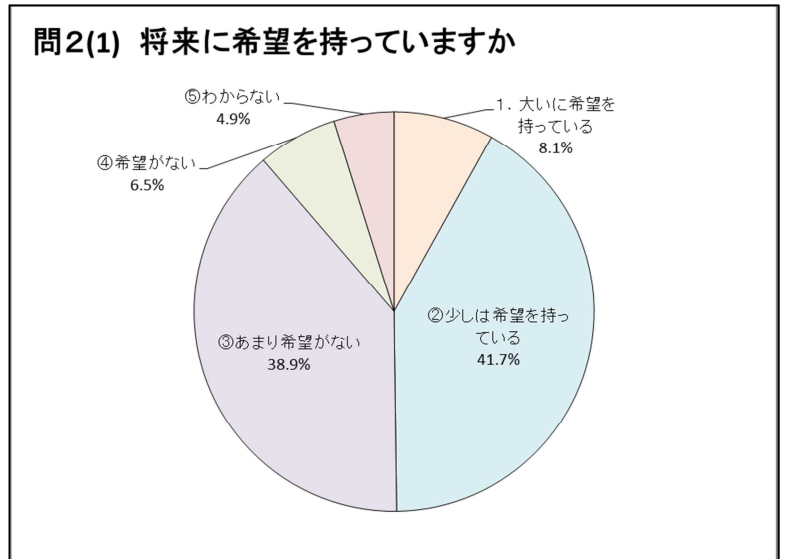
項目	具体的な内容（主なものを抜粋）
①健康・体力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢とともに体力が衰え、いろいろな病気にかかり、健康に生活していけるか</li> <li>・医療費の増加</li> </ul>
②医療・介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体の自由が利かなくなったら誰が看ってくれるか</li> <li>・介護施設が少ないこと</li> <li>・高齢化の進行により介護する人材が不足していくこと</li> <li>・介護等に要する資金が不安であること</li> <li>・障害を持つ子供の将来が心配である</li> </ul>
③子育て・教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・滋賀県の教育水準（学力）が低いこと</li> <li>・助け合いなどの人間性に関する教育ができていないこと</li> <li>・子どもの教育費</li> </ul>
④仕事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事がないこと、失業</li> <li>・正規雇用されないこと、若年層の就職難など</li> <li>・今後も安定した収入が得られて生活できる保証がないこと</li> <li>・子育てとの両立が難しい状況であること</li> </ul>
⑤収入・家計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収入が安定しないこと</li> <li>・所得格差が拡大していること</li> <li>・将来の若者の社会負担が増大していくこと</li> </ul>
⑥自然災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化に伴う異常気象、今までなかった自然災害が発生していること</li> <li>・地震の発生、南海トラフ地震が近い将来発生するのではないか</li> <li>・気候変動に伴う農産物の育成不良や食糧不足</li> </ul>
⑦環境破壊	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系の乱れ</li> <li>・原発事故等に由来する汚染</li> </ul>
⑧犯罪・交通事故等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・凶悪犯罪やひき逃げの発生</li> <li>・食の偽装などモラルが低下していること</li> </ul>
⑨食の安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・輸入食品など安全に対して不安であること</li> <li>・食料自給率が低いこと</li> <li>・T P P問題で外国商品の輸入増加による健康被害が増加する恐れ</li> </ul>
⑩住環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住地の過疎化が進行していくこと、空き家の増加</li> <li>・居住団地の交通機関がなくなること</li> </ul>
⑪老後の生活設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の年金・医療制度を維持できるのか、老後の生活設計ができない</li> <li>・年金の減少と税金、健康保険、介護保険料などの支払いの増加</li> <li>・一人暮らしや介護に対する不安</li> <li>・老後、家族に迷惑をかけないで生活できるか</li> <li>・最後まで我が家で過ごせるか否か</li> <li>・認知症になったときの生活に対する不安</li> </ul>
⑫その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな事に対し漠然とした不安がある</li> <li>・晩婚化、非婚化の進行、少子化と人口減少の進行</li> <li>・高齢化の進行</li> <li>・平穏で心豊かな家庭を守っていけるかどうか、今後の家族のあり方</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族や地域のつながり、助け合い、いたわり合いが希薄していること</li> <li>・経済動向、経済が閉塞していくこと、産業の空洞化、エネルギー不足</li> <li>・人口減少による国内需要、労働人口などの減少</li> <li>・将来の子どもたちの負担</li> <li>・農地を引き継いでくれる者がいないこと</li> </ul>
--	---

**問2 あなたが抱く将来への希望についてお尋ねします。**

**(1) あなたは、将来に希望を持っていますか。**

区分	人数	割合
①大いに希望を持っている	20人	8.1%
②少しは希望を持っている	103人	41.7%
③あまり希望がない	96人	38.9%
④希望がない	16人	6.5%
⑤わからない	12人	4.9%
計	247人	100.0%



**【(1)で①、②を選択された方(123人)のみ】**

**(2) あなたが抱く将来への希望はどのようなものですか。ご自由にお書きください。(主なものを抜粋)**

**【健康】**

- ・心身ともに健康であること、元気に長生きすること
- ・年金や介護制度、福祉、教育、医療制度などが改善していること
- ・介護が必要になったら近くの施設に入所できるなど、社会福祉政策が一層充実し、不安なく生活ができるようになること
- ・安全な食への転換がはかられていること

**【仕事】**

- ・家族と仕事もプライベートも充実した生活を送ること
- ・現在の仕事を続けて将来起業していること
- ・若者や現役世代がいきいきと働く社会になっていること
- ・生涯現役で働き続けることを喜びとして受け入れるような時代になっていること
- ・自分の夢を実現して仕事として生計をたてられるようすること
- ・景気が良くなり、共働きをしなくてもいい家庭がふえる社会

**【住む・つながる】**

- ・友人や地域の人たちと交流し、つながりを持ち楽しく暮らせていること
- ・よりよい人間関係を構築し、人が信頼しあい、つながっていること
- ・ひとりひとりが自分の力を出し合いながら助け合う暮らしを築いていくこと

- ・昔ながらの助け合いの精神、和を大切にしていること
- ・奉仕活動に参加するなど、人の役に立って生き甲斐を感じられること
- ・若い人たちのボランティア精神
- ・支えてくれている妻を初めとする家族の温かさ
- ・家族とともに暮らしていくこと
- ・老後を夫婦で仲良く好きなことをして暮らすこと
- ・互いに人権を尊重し、誰もが住みやすい社会になっていること
- ・拝金主義でない、モラルのあるよい環境が残された社会であること

#### 【学ぶ・育てる】

- ・子や孫が成長していくこと
- ・教育面を充実し、若い人を育てていくこと
- ・日本の若者が人としてとても良いところを持っていること
- ・次世代が世の中を少しずつでも改善してくれること

#### 【楽しむ・自己実現】

- ・自分磨きに努め、主体性のある生き方をしていくこと
- ・自分のやりたいことを実現できること
- ・生涯にわたって学習することができ、ボランティアもできることを楽しくやっていくこと
- ・希望や目標を持ち、努力したり楽しみながら、前向きに生きていくこと
- ・日々の生活を大切に、明るく元気に仕事や遊びができることに感謝すること

#### 【経済・産業】

- ・健康・医療面、環境、エネルギー面などにおける日本の科学技術の進歩
- ・人間・地球双方にとってよりよい生活を可能にする技術革新
- ・IT化の進展により少ないマンパワーでもいろんなことができるようになること

#### 【環境】

- ・琵琶湖を存分に生かし、世界を引っ張る、豊かな自然環境を維持している県であること
- ・住環境的にも安全・安心で気持ちの良い自然環境になっていること
- ・再生可能エネルギーの開発によるCO2削減、大気の清浄が進み、河川・湖沼の水質浄化が図られるなど、日々の生活や生き方が見直され、人と自然が共存できていること

#### 【県土】

- ・安全で安心が隅々まで行き届いた世界

#### 【人】

- ・人間には限界がなく、世界で予期しない良いことが発明されること
- ・日本人の勤勉で粘り強い国民性が災害復興や社会改革に向かっていること
- ・住民の力で様々な課題を乗り越えて人口構成等にあった社会を築いていくこと
- ・さまざまな体験を積んだ団塊の世代から後期高齢者までに人たちが元気に社会に貢献していくこと

#### 【人口減少】

- ・少子化対策や移民政策などの人口・年齢バランス対策を最優先に取り組むこと
- ・滋賀の環境や立地などの特性を生かした施策と出生率の改善など人口維持できる施策

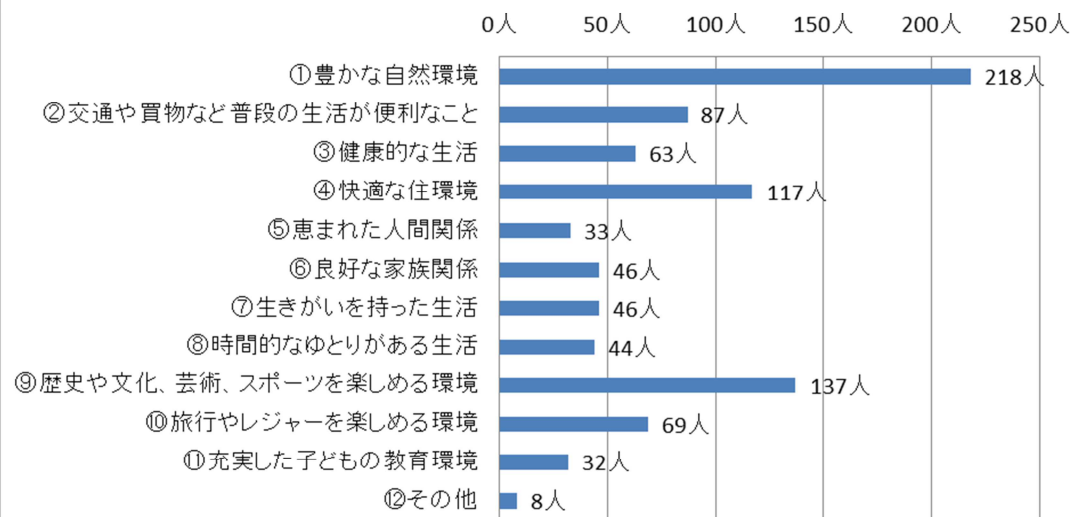
#### 【その他】

- ・漠然とした感じで希望を持っている
- ・ないものねだりではなく、あるものを活かす機運が高まっていることと感じていること

問3 次の世代に伝えたい滋賀の良いところは、どんなところだと思いますか。(複数選択可)

区分	人数	割合
①豊かな自然環境	218人	88.3%
②交通や買物など普段の生活が便利なこと	87人	35.2%
③健康的な生活	63人	25.5%
④快適な住環境	117人	47.4%
⑤恵まれた人間関係	33人	13.4%
⑥良好な家族関係	46人	18.6%
⑦生きがいを持った生活	46人	18.6%
⑧時間的なゆとりがある生活	44人	17.8%
⑨歴史や文化、芸術、スポーツを楽しめる環境	137人	55.5%
⑩旅行やレジャーを楽しめる環境	69人	27.9%
⑪充実した子どもの教育環境	32人	13.0%
⑫その他	8人	3.2%

問3 次世代に伝えたい滋賀の良いところ



「⑫その他」の具体的な内容（主なものを抜粋）」

- ・ 田んぼ、緑、琵琶湖の風景、生き物の豊かな自然
- ・ 立地的に日本の中央に位置し、都会でもあり、田舎でもあること
- ・ 公共機関の交通が便利なこと
- ・ あまりない

問4 次の世代（2040年頃）の将来、どのような滋賀であってほしいとお考えですか。自由にお書きください。（主なものを抜粋）

【健康】

- ・ 県民すべてが健康かつ勤勉で豊かな生活を送れる県
- ・ 福祉が充実した、現役世代に負担が大き過ぎることにならないような自治体
- ・ 県内のどの地域でも医療機関の連携と整備が進んでいる
- ・ 先端技術の医療を受けられる環境が近くにある

- ・福祉施設が充足している、介護従事者の勤労条件も良い
- ・在宅介護がしやすい制度・人員が整い、老後も安心して暮らせている
- ・高齢者・障害者等の生活弱者が多少の費用は負担してでも、充実した生活が送れている

#### 【働く】

- ・県内のすべてのエリアで格差が無く、それぞれのエリアで働く場がある
- ・正規雇用が確保され、安定した生活を送れている
- ・子育てや介護など家族・人生の状況に応じて働き方を柔軟に変えられ、また許容される
- ・若い人が生きいき働けるような社会になり、居場所がある
- ・高齢者も働ける人には短時間でも仕事することができている
- ・障害を持った人でも、雇用の場があり、いきいきと働くことができている

#### 【住む・つながる】

- ・思いやりのある人間関係を築ける社会風土、暖かい県民性を持った過ごしやすい生活環境がある
- ・挨拶や地域活動が自然に行われる近所付き合いやコミュニティが増えている
- ・二世帯、三世帯の家族が同居または近隣に住むことができ、安心して暮らすことができる
- ・親子や夫婦の絆、地域のお年寄りとの絆、企業や公共機関と市民との絆で琵琶湖を囲む輪がある
- ・居住する地域での恵まれた人間関係の中で、助け合いながら生活を営める、懐の広い県である
- ・職住近接し、ゆったりとした時間の中で、人とのつながりを大切にしながら暮らしている
- ・自然環境、生活の利便性、伝統文化がバランスよくある
- ・道路や公園、保育・幼稚園、自然など、快適で整備された住環境がある
- ・商業施設が充実している
- ・犯罪や事故、災害が少なく、子どもも大人も安全、安心した生活を送ることができる
- ・地域の人間関係のつながりをしっかりと持っている
- ・買い物や病院に自力で行くことの出来ない人がサポートされている
- ・元気な高齢者が活躍し、コミュニティービジネスを展開し、社会に貢献している

#### 【学ぶ・育てる】

- ・子どもたちが大きな希望と夢を持って成長できる、支える優しい県であってほしい
- ・出生率が向上し、再び人口増が見込めると同時に、子供の活気あふれる声が聞こえる
- ・人口の減り方が少ない状況になっている
- ・出産を望むカップルに安心して子を産んで貰い、その子育てを社会全体が支援している
- ・安心して子育てができ、心配なく年老いて行くことができる
- ・母親が孤立せずに周りから助けてもらえるような社会になっている
- ・公教育が充実し、教育の質が高い。世界に通じる人材を育むことができている
- ・いじめ問題がなく、子どもたちの笑顔があふれている
- ・教育の負担が軽減されている
- ・家族や郷土に対する愛情と誇りを持ち、他者への尊敬や社会参画を推進する育む場がある
- ・何かに特化したような学部をもつ小規模な大学が設置されている

#### 【楽しむ】

- ・古いものを大切にしつつ、新しいものも取り入れていく、土地柄である
- ・先人の残した伝統への畏敬の念と、次々と生まれる新概念とがバランスよく共存する風土がある
- ・自然や歴史、文化、芸術、スポーツを大切にし、それらを生かし、楽しめている
- ・地域ごとの文化やスポーツ等を通じての積極的な異世代交流がある
- ・身近に自然と親しむことができ、文化環境が充実している

- ・県民であることに誇りが持てる

#### 【経済・産業】

- ・水に関するあらゆる企業の誘致と水の関連施設のさらなる充実が進んでいる
- ・活気があり、雇用の場となる企業がしっかりと定着している
- ・地の利を生かした企業誘致が進み、研究開発関係の企業が集積している
- ・商店街に活気が戻り人々が行きかっている
- ・単なる通過県でなく、琵琶湖や自然や歴史を活かして観光で賑い、心のゆとりを感じることができる
- ・第一次産業と言われる農業・林業・漁業が活性化している
- ・地元の安全で安心な高品質の農産物が提供されている
- ・食の自給率が向上している
- ・滋賀の特産品が多くある
- ・農業の企業化など、農業の近代化が進んでいる
- ・他府県と協働で、あらゆる産業の生産物の生産・供給の企画を進め、自給自足ができる県となっている
- ・田畑や森林を減らさない

#### 【環境】

- ・琵琶湖を大事にする環境先進県であってほしい
- ・琵琶湖を取り巻く環境が今とほとんど変わらず、山や湖と自然環境に配慮された状態であってほしい
- ・経済的な発展をしつつも、琵琶湖を取り巻く自然環境が守られている
- ・自然を大切にし、琵琶湖が大好き、住んでよかったと思える平凡でも幸せを感じられる
- ・開発されず、自然の豊富な県土。知的好奇心を満たし、観光したくなる
- ・豊かな自然環境に囲まれた中で、そこに住む人々が、ストレス少なくゆとりを持って生活できて、子どもを育てる間も、老後も安心して住み続けることができる、人々の心の故郷になる
- ・漁業や農業や生活等において、自然と一体となる文化が築かれている
- ・太陽光などの自然エネルギー利用が進み、エコの最先端となっている
- ・エネルギー面で水や風や太陽光などの好循環利用技術が進歩し、原発に依存していない
- ・「ゴミの落ちていない町」として日本一と誇れるものがある

#### 【県土】

- ・災害（地震、水害、火災など）のない滋賀県
- ・原発事故の不安がない
- ・鉄道や幹線道路などの交通機関がもっと充実している
- ・交通マナーを良くして渋滞のない県道など、交通インフラが進んでいる
- ・買物で利用しなくてもよいように、車以外の交通機関の整備・生活インフラが整備されている
- ・自転車道や歩行者に優しい歩道が整備されている
- ・災害に強いまちづくりが進んでいる
- ・バス釣りなどの釣りが楽しめるような護岸整備がされている
- ・琵琶湖を循環する電車が走っている

#### 【その他】

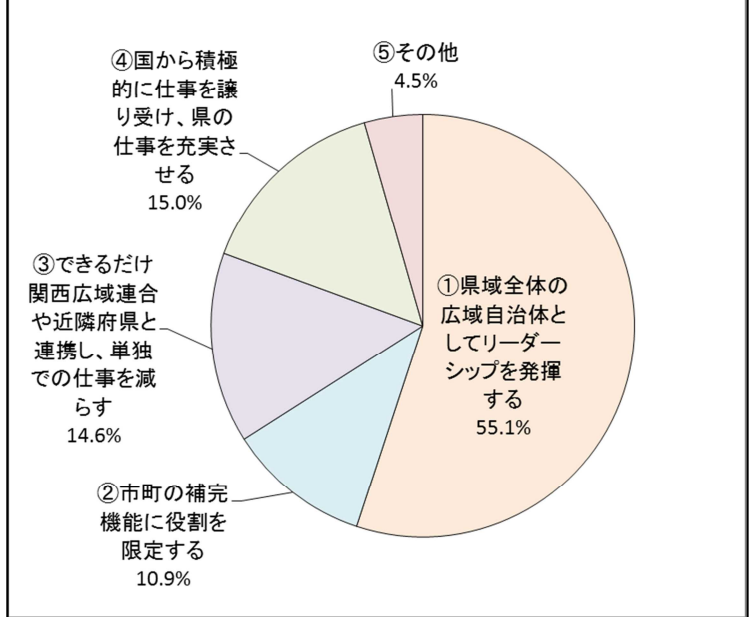
- ・行政組織に、行政関係者のみではなく、文化的専門家や農業専門家が参加できる
- ・住民の声がいち早く県政に反映できる環境が整い、また住民も滋賀全体のことを考えている



問5 今後、県はどんな役割を果たすべきだと思いますか。

項目	人数	割合
①県域全体の広域自治体としてリーダーシップを発揮する	136人	55.1%
②市町の補完機能に役割を限定する	27人	10.9%
③できるだけ関西広域連合や近隣府県と連携し、単独での仕事を減らす	36人	14.6%
④国から積極的に仕事を譲り受け、県の仕事を充実させる	37人	15.0%
⑤その他	11人	4.5%
計	247人	100.0%

問5 今後、県が果たすべき役割



「⑤その他」の内容（主なもの抜粋）」

- ・ 県と市町間の情報交換、補完関係の構築
- ・ 県民一人一人が幸せを実感できる県づくり
- ・ 地域の特徴を活かした町づくりへの応援体制の充実
- ・ 原発再稼働の阻止

【任意】

問6 その他滋賀県基本構想に関してご意見がありましたらお聞かせください。

【長期ビジョン編】

- ・ 県政を推進していく上で非常に重要な構想、グランドデザインを常に県民に示し続けて欲しい。
- ・ 滋賀の良さを生かして日本一暮らしやすい県を目指してほしい。
- ・ 財源の不足や職員の削減等の中において、協働による取組の推進は大切であり、将来を見据えた新しい提案や取組に期待したい。
- ・ 晩婚化、少子化、生涯未婚率の増加、高齢者の増加といった不安材料が多く、個々人の努力だけで暮らしが成り立たない。近所、地域、県民のつながりの中で「暮らし」を考えることが必要。
- ・ 理想で終わらせないために、行政の押しつけではなく、住民の自然発生的な取組を育てて欲しい。
- ・ 人と自然がつながる美しい滋賀の実現を望みます。
- ・ 琵琶湖を守る努力を明記してほしい。
- ・ 全国の自治体に先駆けて、未来につなげる構想を始めてほしい。
- ・ 滋賀の慈愛に満ちた社会を広げていくようにして欲しい。
- ・ 京阪神のベッドタウンとして人口増加する湖南・湖東地域、高齢化と過疎化の進む湖西地域など、エリアごとに抱える問題や対応は様々に異なる。各地域に対する現状認識や方向性を明確にすべき。逆に、各地域のことであるから県は全体としての指針を示したうえで、最も住民に近い基礎自治体の裁量に任せることも考えられる。

- ・南部と北部で環境は異なるが、できる限り地域間の格差がないような政策を望みます。

#### 【県政運営の基本姿勢】

- ・関西連合は各府県にメリットのあるものでないといけない。大阪府の都構想に縛られずに滋賀県の主張をして欲しい。
- ・職員の能力を最大限に発揮でき、部局横断的に連携・補完できる体制整備が必要。
- ・広域連合は京都や大阪のような大都市に飲み込まれてしまう可能性が大きいので、機が熟すまでは県内の色々な環境の整備や向上に力点を置かれたほうが良い。
- ・道州制や京滋合併構想などこれ以上の広域行政は不要。県がリーダーシップをとりつつ県民利益と反するような国の政策には独自性を持って主張をする。市町と連携しながら施策を推進することが必要。
- ・行政・県としてはまず、職員の資質向上、「プロ意識」涵養の徹底を図ってもらいたい。

#### 【プロジェクト編および実施計画】

- ・幾つかプロジェクトがあるが、うちひとつを重点的に実施して短期間に目に見える成果が出すべき。
- ・基本構想よりも実施計画について十分吟味してほしい。
- ・絵に描いた餅をつくるのはたやすいが実施するのはその何倍も難しい。
- ・人口減少は財産の減少、活力を失うことでもあり、人口確保を優先課題として対策を講じるべき。
- ・子供をどんどん生める施策、労働環境を変え若者に安定した生活基盤が築ける施策など、少子化にストップをかける施策を早急に考えなければならない。
- ・人口減少時代にいかに減り方を少なくするか。増やす方策を打ち出すべきである。
- ・子供が安心して学び、育っていきける、将来を担える人材育成を最優先とする取組を進めて欲しい。
- ・高齢化対策は各個性や状況に応じた個別事案として、高齢者全体を一塊と見た考え方をしない必要がある。
- ・若年層の転入や、住みやすいと感じる街づくりなど、若年層がメリットを感じる施策が必要。
- ・他の県や若い人たちの交流事業など、次世代を育む事業をたくさん企画して欲しい。
- ・地域の声を大切にして子供や高齢者の住みやすい環境を整えて欲しい。
- ・地域コミュニティでの年寄りから若い子供までが日常的に接する機会を多くすることが大切。
- ・山や湖など美しい自然に恵まれ、子供たちに体験させてはどうか。
- ・待機児童の解消、保育施設の増設、女性が働きながら子育てしやすい環境づくり、元気な高齢者の経験を生かせる場づくりを進めて欲しい。
- ・美しい町からは美しい心を持った人が多く育つ。県政の基本の一つに美しい町づくりを取り入れることが肝要。高齢者の体力づくりと雑草やゴミの除去を平行して行う運動を奨励すべき。
- ・自然を守り、県民の命・健康・生活を保障することを軸に実行してもらいたい。
- ・滋賀ならではの存在意義や魅力を発信して、地域振興を進めてほしい。
- ・琵琶湖を生かし、釣り大会と清掃活動、地域自治会との連携事業など、人と人をつなぎ合わせ、対話の機会を増やす取組をすべき。
- ・近県の原発再稼働阻止、さらに全国の原発ゼロ実現を追加すべき。
- ・自然エネルギー利用促進に全力を投入することを追加すべき。
- ・自然災害は少ないという立地条件だが、治水や災害対策に今まで以上に力を注いでほしい。
- ・特定、一部に偏らない政策、事業であってほしい。
- ・滋賀の特性を生かして、産業、文化、教育、観光を「点や線でなく、面として」つなぎ合わせ、これらが相互に客を呼び寄せるような施策を推進して欲しい。
- ・京都と手を組んで、観光立県を進めてはどうか。

- ・歴史遺産・資産を活かして、歴史回廊を設けてバスを循環させ、修学旅行等で売り込む。
- ・琵琶湖で分断されているため、地域をつなぐためのフェリーや高速船を導入してみてもどうか。
- ・滋賀県は交通の要に位置しているが、現実には影が薄い。滋賀の発展のため、県庁を彦根や米原や近江八幡などに移転する等、一から県を構築し直す事も必要。
- ・「仕事と家庭や地域生活を両立できる」という考え方でなく、仕事と地域生活を両立させる仕組みづくりが進めば、地元で地産地消のライフサイクルが生まれ、家庭が豊かになるのではないか。
- ・林業や漁業、農業も今後衰退していく。定年退職者が次の職場として地元の一次産業に携わる事ができるような仕組みづくりが必要。
- ・幹線道路と生活道路の整備。琵琶湖や比良連峰などの自然、歴史的遺産や伝統行事を大事にする観光行政。自然環境に見合った会社や工場の誘致と雇用の創出。地域ごとにまとまりのあるコミュニティの建設とそれに必要な施設の完備・充実。他府県からも転入がある充実した魅力ある福祉政策。

#### 【その他】

- ・県民に情報提供し、あらゆる機会に具体的な意見を広く県民から吸い取る方法を検討されてはどうか。
- ・定期的に県民の意見を聴き、構想を見直しすることが良い。
- ・構想づくりの段階から、意見をいただく。
- ・滋賀県の人だけに意見を聞くのではなく、世界で活躍している人まで参加してもらうことが重要。
- ・基本構想は今後も踏襲し、更に未来を切り開いてほしい。今までの成果を踏まえて、修正すべき所は修正して、若い人や子供たちの意見も聞いて、将来計画に織り込んでほしい。
- ・全国に向けて「うちの県はここがNo.1だ!」と言えるものがあれば 一県民として非常に嬉しい。
- ・地理的に恵まれた地域であり、地域の活性化は住民に任せておくべき。役所はどのような方向に進めるか懸命になるべきでない。地域医療・下水道・渋滞解消等最低限の社会サービスに力を注ぐべき。
- ・先進的な政策を打ち出し、次々に実行する県政を期待します。現在、県政が全く見えません。琵琶湖岸の活用も国県市の譲り合いと言いつばかり、少子高齢化は何も手を打ってこなかった結果。
- ・わが県の100年先の議論が先に必要。世界動向を踏まえた最先端の政策方針を打ち出す気概が必要。
- ・県は市町村に対して、福祉の充実・雇用環境の整備でのリーダーシップを発揮することを期待。
- ・基本構想は総花的。協議時間を十分確保し、分野ごとに有識者も納得できる具体的なものとすべき。
- ・お役所の仕事は結果に対する責任が民間に比べて著しく低い点を少しでも改善することが必要。
- ・「滋賀県基本構想」を知らない人が多い。もっと積極的にPRする機会を増やしていくべき。